

# 寒波がつくる圧巻の水瀑

県内では最も温暖な東紀州で、条件が整えば巨大な水瀑が見られる場所があると聞き、強い寒波に見舞われた二月十八日、紀北町で催されたツアーに参加した。三重・奈良県境をなす台高山脈の東側「清五郎滝」目指し車で四十分、山歩き三十分。緑の森の中に幻想的な氷の世界が広がっていた。(長崎高夫)

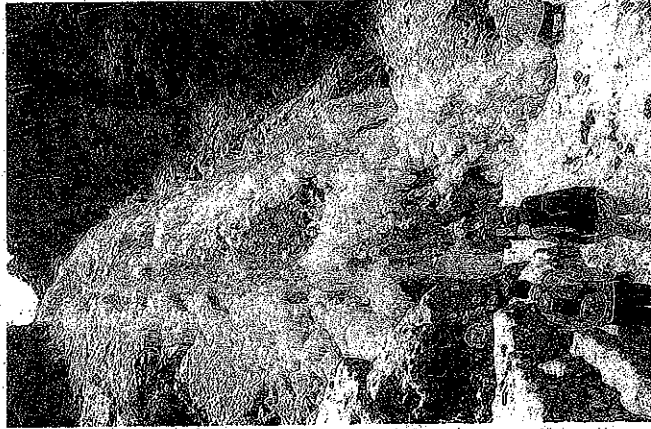
## 紀北 清五郎滝ツアー

清五郎滝は清流と知られる銚子川上流にある大小五つの滝の総称。ツアーは地元キャンプ場「キャンプアイロロ海山」を運営するNPO法人「ささぎと企画会」が企画し、毎年冬場に数回実施している。

発着地点の町営庭園「種まき権兵衛の里」には六人が集まった。「近年はきれいに凍った滝が見られていないが、今日は期待できそう」。ガイドの田上圭さん(まご)の言葉に期待が膨らむ。ガイド二人を含む全員でワンボックスカーに乗り込んだ。目指すは比較的行き



やすい「第二の滝」と「第三の滝」だ。三十分ほど進むと標高八百ほどの水無峠。東に尾鷲岬、西に県最高峰の日出ヶ岳が見える。この辺りから地面は白くなる。登山道入り口まで来ると、田上さんが叫んだ。



雪と氷で彩られた「第三の滝」(いずれも紀北町相賀で撮影)

## 緑の森の中に 幻想的な風景

「人間が来たぞー!!」おちよと遊ばせてくれー!」。「野生動物に存在を知らせる意味も含め、毎回行う「儀式」といっ。ここから第三の滝まで急傾斜の登山道をひたすら三十分下る。途中、林業道路や石垣も見られ、こんな山奥にまで開発の手が及んでいることに驚いた。戦後、良質な材木が取れたことから過去「宝の山」と呼ばれていたと。滝が完全に凍り付いていたため、滑り止めを装着し、慎重に歩を進めた。

いきなり視界が開け、氷の壁が目に見え込んだ。落差四十四があり、滝つぼの近くまで登ると、とがでる迫力ある滝。七割程度の凍結状態で完全な氷瀑とまではならなかったが、「常緑の針葉樹の中に白い氷の滝が流れ、妖精が現れるような雰囲気魅力」。田上

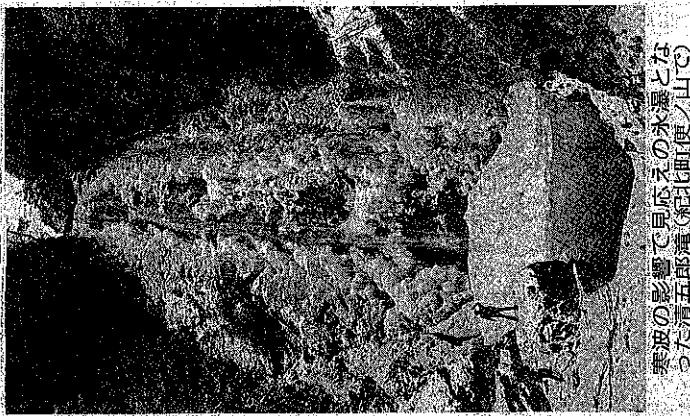
さん説明してくれた。津市から夫婦で参加した辻善光さん(まご)は「想像以上」と感激した様子。妻正子さんは「自分たちだけでは来れなかった。参加して良かった笑顔を見かけた。滝の前で昼食をとり、次の目的地第二の滝へ。落差百十があり、那智の滝にも匹敵する規模だが、中腹からしか見れないため迫力は第三の滝に劣る。それでも氷の量は圧巻で、時間を忘れて写真を撮った。

まごさん(まご)を胸に再び三十分かけて来た道を戻る。途中雪が降ってきたが、麓に戻る頃には雨に変わっていた。ツアーは四日にも予定する。三人以上集まれば、他にも開催を検討するといっ。参加費三千元。①キャンプアイロロ海山 0597(33)0077



川の水が凍り付いた「第二の滝」

2018年2月4日 市梅田新聞



寒波の影響で見応えの水瀑となった清五郎滝(紀北町相賀で撮影)

## 水瀑の美しさに感動

県内男女四人 清五郎滝見学ツアー

紀北町便天山、NPO法人「ささぎと企画会」(田上圭理事長)の清五郎滝見学ツアーが28日(金)にあり、県内の30代

60代の男女四人が滝の美しさに感動した。午前9時に種まき権兵衛の里駐車場を出

発。スタッドレスタイヤを装着した四輪駆動車で林道を約40分走り、銚子川上流の標高約800の地点にある滝の入り口へ。急な登山道を下って川沿いを歩き、約30分で現地に到着した。清五郎滝は「清五郎滝谷」に落ちる。このうち下流の二つ滝と上流の高さ60級の三つ滝で水瀑が見られた。寒気の影響で全体の7割が凍り、参加者は大

術と周囲の黒い岩肌とのコントラストの美しさに感入った。ふるさと企画会又ツアーの大野真さん(44)は「林道を走る道中も岩肌から長いっちらが見られた。期待していた通り、近年にない水瀑が見られた」と話し、田上理事長(56)は「四輪駆動スタッドレスタイヤやチェーン装着など、行くのが困難な場所にある。今後も安全管理を重視しツアーを続けたい」と話していた。